



〈雑録〉富ノ獲得ニ對スル社會的抑制ノ必要ヲ論ズ(1)

花戸，龍藏

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 24(6):938-942

(Issue Date)

1918-06

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052899>



富ノ獲得ニ對スル社會的

抑制ノ必要ヲ論ズ (其一)

商學士 花 戶 龍 藏

近著 The American Economic Review (Vol. VIII, No. 1, Supplement March, 1918.) 中 "The Social Control of the Acquisition of Wealth" by Edward Cary Hayes. 標題スル一文アリ、今左ニ其ノ論旨ノ大要ヲ抄譯ス。若シ夫ノ本文ノ結論ト河上博士ノ「生産政策乎分配政策乎」(經濟論叢第六卷第五號所載)ノ結論トナ併セ讀ム時、更ニ興味深キモノアラン。

Adam Smith, Herbert Spencer, ヲ筆頭トシ其ノ後ノ自由主義ヲ奉ゼル經濟學者、社會學者ハ吾人ニ教ヘテ曰ク、何事モ自由ニセヨ放任セヨ富ノ獲得ニ對シ社會的抑制ヲ加フルガ如キ誠ニ不合理ニシテ社會ヲ惡化コンスレ良化スルコトナシト。自由放任 (laissez faire) 是レ彼等ノ常ニ到達セル結論ナリキ。自由放任主義今尙將シテ探ルベキカ。元來何レノ主義ニセヨ、多ク時

勢ノ產物ニシテ、其ノ時勢ノ變ゼザル限リ各其ノ存在ノ理由ト價值トヲ有スルモノナリ。Plato Aristotle ニヨリテ聲明セラレタル奴隸是認ノ教理ハ、當時ノ社會ニ於テ實際必要ニシテ有益ナリシニ基キ、又天皇神權說、社會契約說ノ如キ縱令其ノ理ニ於テ誤謬アリトスルモ、其ノ當時ニ於テハ各相當ノ價值ヲ有シ、社會政策上利スル所多カリキ。利己的個人主義、探ツテ以テ其ノ教理トセル自由放任主義亦其ノ例ニ漏レズ、社會ノ革進ニ貢獻スル所アリタリ。然共今ヤ時勢ハ變遷セリ現在ノ經濟上社會上ノ過程ヲ考察スル時、吾人自由放任主義ノ價值ヲ疑ハザルヲ得ズ、否寧ロ之ヲ奉ズルノ愚ニシテ怯ナルヲ信ズルモノナリ。自由放任主義ハ多クノ人々ニヨリ贊セラレ、夫ノ重農學派ノ獨斷的樂天主義、賃銀基金說、殘餘請求說等ノ如キ皆此ノ主義ニ基ク。而シテ目下多大ノ勢力ヲ有スル特殊生産力說 (The Specific Productivity Theory) ノ如キ亦此ノ主義ヲ探ルモノナレバ其ノ誤謬ナルコト吾人ノ後、論難スル所ノ如シ。

本論ニ入ルニ先立チ一言スベキハ茲ニ題シテ富ノ獲得ニ對スル社會的抑制ト云フハ、固ヨリ所有ノ平等ヲ期セントスルモノニ非ルコト是也蓋シ所有ノ平等ハ本來不可能事ニ屬シ望ムベクモ非レバ也。Aristotleノ云フガ如ク、公平ハ絶對的ノ平等ヲ謂フニ非ズシテ、相對的ノ平等ヲ意味スルナリ。所有ノ大ト云ヒ小ト云フハ各自ノ性質能力等ニ照シテ定ムベキ相對的ノ言葉ナリ。只吾人現今ノ社會狀態ヲ觀ルニ貧富ノ懸隔甚シク、其ノ傾向タルヤ益顯著タラントスルモノアルガ故ニ、今ニシテ適當ナル政策ヲ施スニ非レバ社會ノ將來決シテ樂觀ヲ許サズ、故ニ之ニ對スル相當ナル分配政策ノ必要ヲ力說セントスル者ナリ。

二

現今富ノ分配甚シク不公平ニシテ、貧富ノ懸隔亦極端ナリ、極端ナル貧富ノ懸隔、斯ク言ハントテ食フニ食ナク、着ルニ服ナキ赤貧洗フガ如キ貧者ト、豪奢ヲ極メ猶且ツ無限ノ富ヲ有スル富者トヲ拉シ來リテ比較例證スルニアラズ。

夫ノ普通ノ社會階級間ニ於ケル貧富ノ懸隔ニ就キテ論ズルナリ。社會階級ノ其ノ一ハ勞働者ノ階級ナリ、茲ニ勞働者ト云フハ不熟練勞働、半熟練勞働ニ從事スル肉體上精神上普通ノ狀態ニアル勞働者ヲ指ス此等ノ勞働者ガ怠惰ニモアラズ意志薄弱ニモアラズ而シテ一定ノ職業ヲ有スルモ、尙且ツ彼等ノ家族ヲ養ヒ、相當ナル生活ヲ送ルニ要スル資料ノ獲得ニ困難ヲ感ズルモノアリ、殊ニ多クノ子女生レ出テンカ益生計ノ困難ヲ來シ社會ノ下層ニ沈倫スルノ止ムヲ得ザルニ至ル。是多數我國勞働者ノ現狀ナリ。社會階級ノ其ノ二ハ富者ノ階級也。彼等ノ多クノ財產ハ生産的事業ニ投ゼラレ居ルト雖モ共同企業組織ノ仕組ニ依リテ多數小投資家ハ彼等ノ爲メニ支配セラレ、僅少ナル大經濟家獨リ其ノ全權ヲ掌握シ國家資本ヲ自由ニ左右セントス。而シテ彼等ノ投資セル資本ヨリ生ズル收入ハ莫大ニシテ、全ク之レヲ享樂シ盡シ得ザルノ有様ナリ。
*Hans 教授ノ最近ノ調査ニ依レバ我國民ノ六割五分ハ貧者、三割三分ハ中等社會、残り二分

ガ富者ニシテ數ニ於テ此ノ僅少ナル富者ガ他ノ階級合計九割八分ノ多數ノ有スル財産ノ一倍半ヲ有スト謂フ。又千八百九十六年^{**}Spahr博士ノ計算スル所ニヨレバ我國民ノ中「シモタヤ」生活ヲ送ル國民一分ノ富者ノ得ル所、五割ノ貧者ノ勞働ニヨリテ得ル所ト相等シト謂フ。右兩氏ノ計算ニヨリ貧富ノ懸隔、富ノ集中ノ程度如何ニ大ナルカラ知ルベシ。社會階級ノ其ノ三ハ所謂中等社會ニシテ熟練勞働者、小商工業者、法律家教育家、政治家、醫者等ノ如キ、又製造工業銀行業ノ如キ大實業ヲ除キタル事業ニ從事セル人々也。此ノ中等社會ニツキ一言スベキハ、貧者ノ階級ハ固ヨリ貧者ナレ其ノ地位ノ低下然カ甚シカラザルニ反シ、中等社會ノ地位ノ低下ノ程度甚シキコト是也。富ノ集中ノ傾向烈シキ現今、中等社會ノ壓迫ヲ受クルノ甚大ナルモノアルニヨル。中等社會ノ頹廢是レ分配制度ノ失敗ニ非ズシテ何ゾヤ。

* W. J. King, The Wealth and Income of the People of the United States (New York, 1915), pp. 64 f. and

chap. X.

^{**} C. B. Spahr, The Present Distribution of Wealth in the United States (New York, 1895), p. 69.

三

吾人ハ前掲スル所ニヨリ貧富ノ懸隔如何ニ甚シキカラ知リタルガ、然ラバ其ノ原因ハ如何。第一ノ原因ハ何等制限ヲ加ヘズ放任セラレタル經濟社會ニマリテハ、富ノ分配ノ標準ハ交換力 (the bargaining power) ノ大小ニヨルト是也。而シテ其ノ交換力ノ大小ハ稀少ノ程度如何ニヨリテ決定セラルルモノニシテ、効用如何ニ大ナルモノモ稀少ナラザレバ交換力ナシ。夫ノ空氣、日光ハ其ノ効用ノ程度測リ知り得ベカラザルニ拘ラズ、普通ノ場合ニ於ケル其ノ交換力ニ至リテハ一瓶ノ氣付藥、一片ノ蠟燭ニ及バザルモノアリ、普通勞働 (Common labour) 亦斯ノ如ク其ノ供給量甚ダ大ナルガ故ニ、同盟罷工ノ場合ノ如ク、人工的ニ供給ヲ制限セザル限り普通ノ場合ニ於テハ其ノ交換力其ノ効用ニ比シ遙ニ小ナリ。勞働ハ賣買セラルベキ商品ニ非ズ

只生産ノ分配ニ與ル基礎トナルノハ、Condillac
曰ク、「賃銀勞働者ハ彼自身ノ成シタル仕事ノ結
果ヲ請求スルノ正當ナル權利ヲ有スルモ此ノ請
求權ヲ行使スル能ハズ、只單ニ此ノ權利ヲ拋棄
シテ貨幣ヲ得ルノミ」ト、誠ニ至言ナルト謂フ
ベシ、元來物ノ交換力生ズル所以ハ或ハ貴金屬
ノ如ク性質上稀少ナル事實ニ基クコトアルベク
或ハ製造品ノ如ク生産費ノ關係ニ因ル場合アレ
ル勞働（人）ノ供給ニハ斯ルコトナシ、商品ニア
リテハ其ノ市價生産費以下ニ下落センカ或ハ生
産高ヲ制限シ、或ハ倉庫ニ保管シテ供給ノ減退
ヲ圖リ、以テ價格ノ騰貴ヲ促シ得ルニ反シ、勞
働ニアリテハ將來ノ爲メノ保管モ生産高ノ縮少
モ全ク不可能ナリ。故ニ賃銀下落スルコトアラ
ンモ、之レガ爲メ勞働ノ供給減少スルガ如キ之
ナカルベク、其ノ下落ニシテ永續センカ勞働者
ノ生活程度ノ低下トナル、生活程度ノ低下ハ聽
テ小兒出産ノ減退、從テ生ズル勞働供給ノ減少
ヲ望ミ得ベキガ如キモ畫餅而已。否却テ次ノ時
代ニ於テハ精神上肉體上粗惡ナル貧人勞働者ノ

増加トナリ、社會ノ下層ニ沈淪スルヲ見ン。是
レ實ニ我國ノ苦シミツ、アル現狀ニシテ、事前
ニ於テ法律習慣ヲ以テ適度ニ經濟狀態ヲ牽制セ
ザリシニヨル、自由放任ノ弊又大ナラズヤ。

次ニ貧富ノ懸隔ヲ大ナラシメタル第二ノ原因
ハ集中的企業組織ノ勃興是ナリ。此企業組織ノ
經營ハ生産能率ノ増加ヲ來スガ故ニ社會全股ヨ
リ之ヲ見ル時ハ固ヨリ喜バシキコトナレモ、一
度其ノ生産ノ結果ヲ分配スルニ至リ、茲ニ各階
級各自ノ利害ノ衝突ヲ見ル、生産政策上有利ナ
ル集中的組織の經營モ分配政策上有害ナルヲ如
何セン、企業組織ノ集中ハ是レ勢力ノ集中ヲ意
味シ、勢力ノ集中ハ聽テ獨占ノ弊ニ陷ル、見ヨ
如何ニ富者其ノ權威ヲ逞ウセルカヲ、勞働者ノ
彼等ノ爲メニ犠牲ニ供セラルルハ言ハズモガナ
小資本家ハ彼等ヨリ甚シキ壓迫ヲ受ケ其ノ利益
ヲ侵サレ、消費者亦不合理ニ高價ナルモノヲ購
買スルノ餘儀ナクセシメラル、共ニ與ニ富者ノ
爲メノ犠牲トナル、斯クテ富者ハ益富ミ、貧者
ハ愈貧トナリ、兩者ノ懸隔更ニ甚シカラントス。

大企業ノ勃興、其ノ自然ノ儘ニ放任スルコト恐
ルベキモアラズヤ。

吾人ハ上述スル所ニヨリ現今ノ如キ何等制限
ヲ加ヘズ、自由放任、不整頓ナル經濟狀態ニア
リテハ、不當ナル富ノ分配、貧富ノ懸隔益著シ
カラントスルノ傾向アルコト、並ニ其ノ然ル所
以ノ大要ヲ知り得タリ、イデヤ進ンデ自由放任
主義ヲ其ノ背景トスル從テ之レヲ辯護スル夫ノ
特別生産力說ノ當否ヲ檢セン。(未完)

*Charles Gide and Charles Rist, *History of Economic
Doctrines*, (Heath, Boston), p. 49.